**林邸**

林家は高知で影響力のあった一家で、その邸宅は明治時代 (1868–1912年) の自由民権運動の拠点でした。この邸宅は、本来の設計要素と素材を保存することに重点をおいて、2018年に修復と改装がなされました。隠れ階段や逃げ道などの元々あった機能の多くが、明治初期の政治的に不安定だった時期を思い起こさせます。

この邸宅は、武士の息子である林有造 (1842–1921年) が、1889年に建てたものです。林は、徳川幕府が滅びた後に成立した明治新政府の一員でした。しかし、政府の政策と意見が合わず職を辞し、明治政府に対して1877年に蜂起することになった薩摩の反乱軍を支持しました。

林は、反乱軍の指導者に武器を送り、大阪にある政府武器庫を襲撃する計画を立てたことを理由に、7年間投獄されました。出獄後は、自由民権運動に始まる一連の政治運動に活発に参加し、自宅を仲間の活動家や支援者が集まる場所として使いました。

この邸宅は、林と仲間を政敵から守るための機能を備えていました。玄関を見おろせる隠し部屋は見張り場として使われており、邸宅に通じる道を使用人が見張っていました。二階の畳の部屋の床の間には取り外せる床板があり、下の階にすぐ逃げられます。

邸宅の前面にある2つの部屋は、政治集会を行うために使われました。これら2つの大きな畳敷きの部屋は襖で仕切られており、襖を開けば約100人が入れます。サクラやタモなど、稀少な木材が随所に使われています。タモは、世界で最も稀少な硬材の1つです。近年のリノベーションの一環として、座敷周りの縁側沿いに現代的なガラスの引き戸とベンチが設置されました。エアコン等、現代的な快適さをもたらす設備は、天井にある木製の飾り板で隠されています。邸宅の随所の木造部分には、金輪継 (釘を使わずに木材を固定する伝統的な手法) のような建築当時の技術が見られます。この邸宅は、建築当時の設計に近い状態を保ちつつ、耐震補強が施され、現代的な設備が整えられました。この歴史のある邸宅には自由に訪れることができます。

リノベーションの一環として、コミュニティ・スペースを作るために、邸宅には新しい施設が加えられました。現代的なカフェには邸宅の伝統的な設計が活かされており、建築当時の素材の一部が装飾として再利用されています。軽い食事をしたり、アクティビティに関する情報を得たり、地元の産品を購入することができます。旅行客が移動後にリフレッシュできるよう新しいお手洗いとシャワーが備えられており、自転車をレンタルすることもできます。林邸は、宿毛をめぐる人気のサイクリングコースに面しています。四国遍路八十八ヶ所霊場の1つである延光寺へは、自転車で簡単に行ける距離です。